

平成26年度以降のフォローアップ調査の方向性(案)

※下線部分は、平成24年度調査からの変更点

1. 調査の目的

- ① 第1次報告の提言に対する取組状況のフォローアップ
- ② 上記①を踏まえた課題の指摘と改善の促進
- ③ 各歯学部**の強みや特色を活かした優れた取組や成果(社会ニーズへの対応等)の把握**
- ④ 上記③の積極的な発信による、歯学教育に対する社会のご理解・信頼の確保、歯科医師の活躍の場の拡大に向けたPR

2. 調査の実施サイクル

- 2年ごとを目安に実施

3. 調査対象大学

- 平成26年度は、全歯学部を対象
(※平成24年度は、平成22年度調査で改善を指摘された歯学部が対象)

4. 調査項目(例)

- ① 入学状況(充足率、競争倍率)、国家試験合格率
- ② 診療参加型臨床実習の実施状況(実習期間、学生1人あたり自験症例数等)
- ~~③ 課題の指摘事項に対する取組状況~~
- ③ 第1次報告の4提言に関する近年の改善実績等の概要(アウトプット、アウトカムを重視)
- ④ 各歯学部**の強みや特色を活かした優れた取組や成果の概要(社会ニーズへの対応等)**

5. 調査方法

- 書面調査、ヒアリング、実地調査
- ヒアリング・実地調査の対象には、優れた取組を行っている歯学部に対する先進事例の調査を含む

6. 負担軽減のための措置(例)

- 調査票の簡略化（項目の大括り化、文字数・頁数の制限、既存資料の活用等）
- ゆとりある調査期間の設定
- ヒアリング、実地調査対象大学の精選

7. 今後の検討課題

- 調査対象大学にとってのメリットの整理（社会へのPR等）
- 調査結果のより効果的な公表方法
- 調査方法等は、社会情勢等に応じて必要な見直しを実施